

第二十七回 帝國議會 貴族院議事速記錄第八號

〔河井書記官朗讀〕
一昨十五日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可
決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
明治四十三年度歲入歲出總豫算追加案(第三號)

明治四十四年二月十七日(金曜日)
午前十時五分開議

議事日程 第八號 明治四十四年二月十七日

午前十時開議

第一 明治四十四年度歲入歲出總豫算案竝明治四十四年度各
特別會計歲入歲出豫算案審查期限ヲ定ムルノ件

第二 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件審
查期限ヲ定ムルノ件

第三 明治四十三年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)審查期
限ヲ定ムルノ件

第四 明治四十三年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第
二號)審查期限ヲ定ムルノ件

第五 帝國大學特別會計法中改正法律案(政府提出衆)
(議院送付) 第一讀會

第六 朝鮮ニ於ケル貨幣整理ノ爲生シタル債務ヲ貨幣整
理資金特別會計ニ移屬セシムル件ニ關スル法律案 第一讀會

第七 治水費資金特別會計法案(政府提出衆)
(議院送付) 第一讀會

第八 府縣災害土木費國庫補助ニ關スル法律案(政府提出衆)
(議院送付) 第一讀會

第九 商法中改正法律案(政府提出)
第十 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出)
第十一 不動產登記法中改正法律案(政府提
出)
第十二 鑛業法中改正法律案(政府提出)

第十三 公共團體ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル法律案可決報告書
(政府提出衆) 第一讀會ノ續(委員長)
(報告)

第十四 用ニ關スル法律案(政府提出)
○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

貴族院議事速記錄第八號 明治四十四年二月十七日 議長ノ報告

東京府管内八丈島ノ地租ニ關スル法律案 同日本院ニ於テ可決シタル左ノ衆議院提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可
決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
裁判所構成法中改正法律案 同日本院ニ於テ可決シタル左ノ衆議院提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ
旨ヲ衆議院ニ通知セリ
民事訴訟法中改正法律案 同日本院ニ於テ可決シタル左ノ衆議院提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ
旨ヲ衆議院ニ通知セリ
政府委員 同日第九部ニ於テ曩ニ辭任セル請願委員橋本雄造君ノ補闕選舉ヲ行ヒシニ
同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
請願委員 同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
鑛業法中改正法律案特別委員會 委員長 伯爵柳原義光君 副委員長 子爵鳥居忠文君
松村時次君
公共團體ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル法律案特別委員會 委員長 石井省一郎君 副委員長 石黒五十二君
同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
鑛業法中改正法律案可決報告書
公共團體ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル法律案可決報告書
昨十六日請願委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
請願委員會特別報告第三號 同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ
輸出菓子糖果原料砂糖戻稅法中改正法律案 明治三十八年法律第十七號中改正法律案
明治四十年法律第三十號廢止法律案 同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案
裁判所位置名稱及管轄區域變更ニ關スル法律案

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案
明治四十四年二月十四日

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年二月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、明治四十四年度歲入歲出總豫算案並明治四十四年度各特別會計歲入歲出豫算案審査期限ヲ定ムルノ件、第二、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件審査期

ヲ定ムルノ件、第三、明治四十三年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)審査期限ヲ定ムルノ件、第四、明治四十三年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第二號)審査期限ヲ定ムルノ件

〔左ノ送付文ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

明治四十四年度歲入歲出總豫算案並明治四十四年度各特別會計歲入歲出豫算案
右本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十四年二月十四日

貴族院議長公爵德川家達殿 衆議院議長 長谷場 純孝

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十四年二月十四日

貴族院議長公爵德川家達殿 衆議院議長 長谷場 純孝

(第二號)明治四十三年度歲入歲出總豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十四年二月十四日

貴族院議長公爵德川家達殿 衆議院議長 長谷場 純孝

(特第二號)明治四十三年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

○議長(公爵德川家達君) 諸君、本官ハ茲ニ明治四十四年度歲計豫算ヲ諸君ニ紹介ヲ致シマスルハ最モ光榮ノ儀ト存ジマス、曩ニ政府ガ衆議院ニ提出イタシマシタル明治四十四年度總豫算ニ計上スル所ノ歲入ハ、經常部ニ屬スルモノ四億九千二百十三万八千圓、臨時部ニ屬スルモノ五千九百八十九万四千五百三十九圓、合計五億五千二百三万二千五百三十九圓デアリマシテ、其歲出ハ經常部ニ屬スルモノ四億七百十六万三千九百九十一圓、臨時部ニ屬スルモノ一億四千四百八十六万八千五百四十八圓、合計五億五千二百三万二千五百三十九圓デアリマス、故ニ經常歲入ヲ以テ經常歲出ニ比較イタシマスレバ、八千四百九十七万四千九圓ノ超過デアリマシテ、之ヲ前年度ニ於キマスル經常部歲入歲出ノ關係ニ對照イタシマスレバ、一層良好ナル狀態ヲ示シテ居ルノデゴザリマス、右總豫算ニ計上イタシマシタル歲出ノ外、明治四十四年度ニ於キマシテハ、臨時軍事費特別會計ヨリ繰越シマシタル經費ノ中、二百六十五万圓ヲ使用スルノ豫定デアリマシテ、前年度剩餘金ヲ以チマジテ之ヲ支辨スルノ計畫デアリマス、明治四十四年度歲入ヲ以テ之ヲ前年度豫算ニ比較イタシマスルニ、經常部ニ在リマシテハ前年度ニ於テ決定シタル稅法整理ノ結果、前年度ニ於キマシテ一部ノ減額ヲ示スニ止マレル地租ハ、本年度ニ於キマシテ其全部ノ減額ヲ來タシ、營業稅ハ本年度ヨリ新率ヲ適用セラル、ニ依リマシテ、共ニ減收ヲ見マスルノ外、前年度ニ於ケル稀有ノ水害ハ自ラ各種租稅ノ收入ニ影響ヲ及ボスベキモノガ無イデハアリマセヌナレドモ、一般經濟上ノ發達及新關稅率ノ實施ニ伴ヒマシテ增加スルモノガアリマスルガ爲ニ、結局租稅收入ニ於キマシテ三百八十餘万圓ノ增加ヲ致シ、其他印紙收入、官業及官有財產收入等ニ於キマシテ、朝鮮總督府特別會計設置ノ結果、前年度ニ於テ一般會計ニ屬シタル歲入ノ一部ヲ本年度ニ於テ同特別會計ニ移シ替ヘマシタルモノガアリマスルガ爲ニ、二百七十九万餘圓ヲ減少イタシマシタルケレドモ、一般經濟上

○議長(公爵德川家達君) 桂大藏大臣
〔國務大臣侯爵桂太郎君演壇ニ登ル〕

貴族院議長公爵德川家達殿 衆議院議長 長谷場 純孝

ノ發達ニ伴ヒマシテ收入ノ増加スルモノガアリマスル等ニ依リマシテ、差引百四十七万餘圓ノ増加ヲ致シ、結局經常部ニ於キマシテ五百三十四万餘圓ノ增加ヲ示シテ居リマス、又臨時部ニ於キマシテ主トシテ軍艦水雷艇補充基金繰入ノ増加及新ニ設置イタシマシタル治水費資金ノ繰入等ガアリマスルユエ、差引千二百三十餘萬圓ヲ増加イタシマスルタメ、歲入總額ニ於キマシテ千七百七十餘萬圓ヲ増加イタシマシタ、明治四十四年度歲出ヲ以テ之ヲ前年度豫算ニ比較イタシマスルニ、經常部ニ在リマシテハ、一方ニ於キマシテ既定ノ計畫ニ基ク事業進捗及軍備ノ充實等ニ依ツテ歲出ノ増加スルモノガアリマスルガ爲ニ、差引三百九十六萬餘圓ヲ減ジ、臨時部ニ在リマシテハ一方ニ於キマシテ既定繼續費年割額ノ減少シ若クハ前年度限リノ費途デアリスルモ、他方ニ於キマシテ國債整理基金ノ繰入及諸拂戻金等ノ減少スルモノガアリマスルガ爲ニ、歲出ノ減少スルモノガアリマスルモ、他方ニ於テ既定繼續費年割額ノ増加シ若クハ前年度ニ於テ著手シタル關門海峽ノ改良、神戸税關防波堤ノ築造等ニ關シマシテ、事業ノ進捗ニ伴ヒ工費ノ増加スルモノガアリマスル等ノ外、海軍軍備補充、治水事業、製鐵所擴張、蠶種統一等、國防ノ充實、國土ノ保全並ニ產業ノ發展上、緊急缺クベカラザル諸般ノ經理事項ニ關シ、或ハ既定ノ計畫ヲ擴張シ、或ハ新ニ特別ノ方策ヲ定メタル等ニ依リ、歲出ノ増加スルモノガアリマスルガ爲ニ、差引二千百六十九萬餘圓ヲ増加イタシ、結局歲出總額ニ於キマシテ千七百七十餘萬圓ノ増加ヲ見リマスル二十九万餘圓、歲出臨時部ニ於キマシテ遞信省所管、發電水力調査費ニ於キマシテ三萬圓、合セテ三十二萬餘圓ノ削減ヲ致シマシタルノ外、全部之ヲ可決シタルヲ以チマシテ、歲入總額五億五千二百三万二千五百三十九圓、歲出總額五億五千百七十万七千六百七十五圓トナルノ計算デアリマシテ、又明治四十五年度以降ニ瓦ル繼續費ノ年割額、之ニ對シマシテモ製鐵所擴張費ニ於キマシテ、其一部ヲ後年度ニ繰延ベマシタルノ外、全部政府ノ提案ヲ可決イタシマシタ、以上明治四十四年度豫算ニ關シ、其歲入歲出增減ノ大體、及衆議院ニ於キマシテ審議ノ概要ヲ説明ヲ致シマシタ、本大臣ハ更ニ進ミマシテ同年度豫算ニ關シマスル財政計畫ノ綱領ニ付キマシテ一言イタサウト考ヘルノデゴザイマス、諸君、歲計ノ基礎ヲ確實ニ致シマシテ公債ニ對

シマスル信用ヲ厚ク致シマスルハ、政府ガ前々年度以來、銳意其實行ニ努メマシタル財政上ノ大方針デゴザリマス、明治四十四年度豫算ヲ編製スルニ當リマシテモ亦從來ノ方針ヲ繼承イタシマシテ、財政基礎ノ鞏固ヲ維持スル範圍内ニ於キマシテ、内外ノ情勢ニ鑑ミマシテ、又國勢ノ進運上、緊急ニシテ已ムヲ得ザル施設ヲ實行スルノ政策ヲ執リマシタ、今此計畫ノ主要ナルモノヲ舉ゲテ申述ベマスレバ、則チ次ノ如キモノデアルノデゴザリマス、第一、海軍ノ製艦及造兵方針ニ適當ナル變更ヲ加ヘ、以テ軍備ノ充實ヲ圖ルコト、又ニニハ治水ノ根本策ヲ定メ、生民ノ災厄ヲ除キ、國土ノ保全ヲ期スルコト、三、鐵道ノ改良及普及ニ努メ、以テ交通機關ノ整備ヲ圖ルコト、四、新ニ帝國ノ版圖ニ歸シタル朝鮮ニ對シ其開發ニ必要ナル各般ノ施設ヲ爲スコト、五、其他產業ノ發達、國民經濟ノ進歩、之ニ必要缺クベカラザル諸般ノ經營ヲ行フコト、此五ツノ……五箇條ノ目的ニ依リマシテ計畫ヲ定メタノデゴザリマス、諸君、最近列國海軍ノ趨勢ヲ見マスルト、其製艦及造兵ノ方針ニ一大革新ヲ來タシマシテ艦型竝ニ砲徑ニ於キマシテ愈、其大ヲ競フニ至リマシテ、從ツテ帝國海軍ニ於キマシテモ亦其既定計畫ニ係ル軍備ノ充實ニ關シテ、製艦造兵ノ方針ニ適當ナル變更ヲ加ヘ、國防ノ充實ヲ圖ルノ必要ガゴザリマシテ、政府ハ現下ニ於ケル我ガ財政ノ狀態ニ鑑ミマシテ、其經常歲入ヲ以チマシテ、之ヲ支辨シ得ベキ範圍ニ於キマシテ、海軍軍備充實ノ計畫ヲ改定ヲ致シ、既定繼續費ニ對シマシテ、本年度以降六箇年間ニ瓦リマシテス、前年ニ於キマスル洪水ハ廣ク各地ニ涉リマシテ多大ノ損害ヲ及ボシ、人民ノ痛苦極メテ大ナルモノデアリマス、政府ハ之ガ應急ノ手段ニ於キマシテテ其既定年割額ニ對シ增加ヲ要シマスル金額ハ一千四百八十餘萬圓デアリマス、前年ニ於キマスル洪水ハ廣ク各地ニ涉リマシテ多大ノ損害ヲ及ボシ、人民ノ痛苦極メテ大ナルモノデアリマス、政府ハ之ガ應急ノ手段ニ於キマシテ遺算ナカラムコトヲ期シマシタ、又其復舊工事費ニ關シマシテモ、或ハ國庫補助ニ付キマシテ臨機ノ處置ヲ執リ、或ハ預金部ノ低利ノ資金ヲ融通ヲ致シ、地方費負擔ニ屬スル經費ノ財源ニ充テシムル等、專ラ地方人民ノ負擔ノ輕減ヲ致シ、其恢復ヲ速ナラシムルノ方法ヲ講ジマシタ、之ガ爲ニ既ニ國庫ヨリ支出シ、又將來支出スペキ金額ハ實ニ七百餘萬圓ニ達シ、低利資金ヲ貸出高ハ實ニ千七百餘萬圓ニ上ボルコト、ナリマシタ、シカモ是レ單ニ前年ニ於キマスル水害後ノ應急手段ニ過ギマセヌノデゴザリマス、抑、本邦ノ國土タル、地勢ノ關係上、容易ニ出水ノ害ヲ見ルノ虞ガアリマスル故ニ、政府ハ

夙ニ河川ノ改良ヲ實施イタシ來リマシタナレドモ、未ダ十分ニ之ガ災厄ヲ防
止スルニ足リマセヌタメ、今ニシテ早ク百年ノ大計ヲ定メマセヌトキハ、將
來爲ニ國土ヲ損シ、生命ヲ傷ヒ、又財産ヲ失フ等、其慘害寔ニ測知スルコト
ガ出來マセヌノデゴザリマス、之ヲ以チマシテ、政府ハ根本的治水策ヲ定メ
ルコトノ一刻モ猶豫スペカラザルヲ認メマシテ、曩ニ特ニ臨時治水調査會ヲ
置キ、河川ノ改良、砂防ノ實施、森林ノ増殖、其他治水ニ關シマスル各般ノ
計畫ヲ其議ニ付シマシテ、爾來同會ニ於キマシテ周密ナル調査審議ヲ經マシ
タルノ結果、最近ニ及ビマシテ、茲ニ永遠ニ瓦ル所ノ治水策ノ成案ヲ得マシ
タルガ故ニ、政府ハ右ノ計畫ニ基キマシテ本年度以降之ガ實行ヲ期スルノ考
ヘデアリマス、其第一期ノ事業ニ要シマスル經費ノ總額ハ、一億九千三百餘
万圓デアリマシテ、十八箇年間ニ完成スルノ豫定デアリマス、本年度ニ於テ
要スル經費ハ千二百七十九萬餘圓デアリマス、右治水事業ニ要スル經費ハ國
庫竝ニ關係府縣ニ於テ之ヲ分擔スペキハ當然デアリマスケレドモ、其經常歲
入ヲ以チマシテ年々必要ナル金額ノ全部ヲ支辨セムト致シマスルトキハ、負
擔重キニ過グルト言ハナケレバナリマセヌ故ニ、政府ハ中央竝ニ地方財政ノ
負擔ヲ考慮イタシマシテ、暫ク借入金ヲ以テ其足ラザル所ヲ補ヒ、以テ一舉
シテ先ヅ其事業ヲ完成ヲ致シ、然ル後徐ロニ之ガ償還ヲ爲スヲ以テ適當ナリ
ト認メマシタ、而シテ多年ニ亘リマシテ其計畫ノ遂行ヲ確實ニ致シマスル爲
ノ資金ニ關シマシテハ特別ノ會計ヲ設置イタシマスル考ヘデゴザイマス、諸
君、產業ノ發達上、交通機關ノ整備ヲ必要ト致シマスルコトハ今特ニ申上げ
ルマデモナイコトデゴザイマス、今ヤ財政ノ整理漸ク其歩ヲ進メマスルニ及
ビ、交通機關ノ整備ヲ圖リマシテ以テ產業ノ發達ニ資シ、國運ノ發展ヲ期シ
マスルノガ刻下ノ急務デアリマスル、故ニ現在ノ鐵道ニ對シマシテ大ニ改良
ヲ加ヘマスト同時ニ、新ニ新橋下ノ關間ノ幹線ヲ廣軌式ニ改築ヲ致シ、並ニ
既ニ著手シタル線路ノ外、更ニ數線ノ建設ヲ企畫イタシ、且ツ既成鐵道ノ交
通ヲ補成スベキ輕便鐵道ノ建設ヲ獎勵スルノ計策ヲ立テマシタルモ、衆議院
ニ於キマシテハ廣軌改築ノ豫算ノ增額ハ其決定ヲ他日ニ譲リ、同時ニ輕便鐵
道建設費ノ中、未定線ニ關シマスル三百八十万圓ノ決定モ亦他日ニ譲ルト云
フ意味ヲ以チマシテ之ヲ削除スルノ議ヲ決シマシタ、右修正ノ結果、既定ノ
計畫ニ對シマシテ更ニ建設費ニ於キマシテ總額七千三百餘万圓、改良費總額

ニ於キマシテ五千二百餘万圓ノ増加ヲ要シ、本年度支出ノ帝國鐵道建設改良
費ノ年割額ハ總計五千百九十三萬餘圓ニ達シマシタ、又新ニ帝國ノ版圖ニ歸
シマシタル朝鮮ニ對シマシテハ、其開發ニ努メ、以テ新附ノ民ヲシマシテ永
久福利ヲ享ケシメネバナラヌノデゴザイマス、依リマシテ朝鮮總督府ノ會計
ハ之ヲ特別ノモノト致シマシテ、其歲入ヲ以テ其歲出ニ應ジ、足ラザル所ハ
要ナルモノハ、鐵道ノ建設改良、海陸連絡ノ設備、道路ノ修築、各種產業ノ
補助及土地ノ調查デアリマシテ、或ハ從來ノ規模ヲ擴張シ、或ハ新ニ計畫ヲ
立ツル等デアリマシテ、是レ皆富源ノ開發、民力ノ養成ニ要スル所ノモノデ
アリマス、而シテ本年度ニ於テ一般會計ヨリ補充ヲ要シマスル金額ハ千二百
三十五万圓デアリマシテ、之ヲ前年度ニ於テ舊韓國ノ爲ニ一般會計ヨリ支出
セシ金額ニ比較對照イタシマストキニハ、純粹ニ一般會計ノ負擔ヲ增加イタ
シマシタル金額ハ百三十六万圓デゴザイマス、又前年度ニ於ケル大水害ノ後
ヲ承ケマシテ、國費多端ナルノ際ニ當リ以上各般ノ施設ヲ實行スルノ外、製鐵
所ノ擴張、蠶種統一ニ關スル事業等、產業ノ發達ニ資スペキ計畫ヲ定メマシ
テ、之ニ要シマスル費額モ亦少クアリマセヌナレドモ、歲出ノ全體ヲ通ジマ
シテ努メテ緊縮ヲ圖リマシタルガ故ニ、一般ノ歲計ニ於キマシテハ公債財源
ニ依ラズシテ能ク歲入歲出ノ均衡ヲ保ツコトヲ得マシタルノミデナク、公債
金償還資金ト致シマシテ五千万圓ヲ繰入スルノ計畫ヲ定メマシタ、前年度ニ
於テ實行イタシマシタル公債借換ノ成績ヲ一言イタシマスルニ、借換ノ爲ニ
發行イタシマシタル四分利公債ハ、總額五億五千六百餘万圓デアリマシテ、
之ヲ以テ償還ヲ致シマシタル五分利公債ノ總額ハ五億千八百餘万圓デアリマ
ス、其結果、毎年利子ノ節約ヲ得ベキ金額ハ三百六十餘万圓ニ達シマス、公
債ノ借換ハ永ク國庫ノ負擔ヲ輕減ヲ致シ財政上利益スルトコロ大ナルノミナ
ラズ、右低利借換ノ結果ハ自ラ一般金利ノ低落ヲ誘致イタシマシテ產業ノ發
達ヲ刺戟シ、之ニ依リマシテ又間接ニ國庫ヲ益スルモノ少クナインデアリマ
ス、政府ハ今後モ亦市場ノ情勢ヲ案ジマシテ、適當ト認ムル方法ニ依リマシ
テ既定ノ計畫ヲ遂行シ以テ一旦著手シタル事業ヲシテ能ク終始スル所アラシ
ムル考ヘデアリマス、諸君、翻ツテ前年中ニ於ケル我ガ經濟界ノ趨勢ヲ案ジ

マスルニ、金融ハ常ニ緩漫ノ状態ヲ呈シマシタルノミナラズ、稀有ノ水害ハ各地ニ於ケル産業ヲ害シ、地方人民ノ購買力ヲ損シタル情況デアリマスルガ、同年中、銀行會社ノ新設又ハ擴張ノ計畫ヲナシタルモノハ約四億八千餘万圓ニ達シテ居ルノデアリマス、現實、社債又ハ株金拂込ヲナシタルモノガ約二億圓ニ上ボッテ居ルノデアリマス、大體ニ於キマシテ各種ノ事業ハ漸次穩健ナル發達ノ兆ヲ呈シツ、アルノハ一般ニ認メラル、所デアリマシテ、殊ニ製造工業ニ要シマスル資金ガ最モ多額ヲ占メテ居ルノデゴザイマス、而シテ其計畫ニ係ルモノガ約一億四千万圓ニ達シマシタルコトハ良好ナル傾向ナリト言ハナケレバナラヌト考ヘルノデゴザイマス、本年度ニ於キマシテハ諸般ノ財政的施設ト相俟チマシテ、更ニ一層良好ナル情況ヲ呈スペキコトハ本官ノ疑ヒヲ容レザル所デアリマス、又同年中ニ於ケル我ガ外國貿易ノ情況ヲ見マスルニ、輸出額ニ於キマシテ四億五千八百餘万圓、輸入額ニ於キマシテ四億六千四百餘万圓、合計九億二千二百二十餘万圓デアリマシテ、其輸出入ハ輸入額ノ輸出額ニ超過スルコトガ僅ニ五百八十餘万圓デアリマス、之ヲ前年度ノ貿易額ニ比較イタシマスニ、輸出ニ於キマシテ四千五百餘万圓、輸入ニ於キマシテ七千万圓ノ増加ニナッテ、實ニ一億一千五百餘万圓ノ増加ヲ致シマシタノデゴザイマス、若シ右輸出入額ニ更ニ内地朝鮮間ニ於ケル貨物ノ移出入ヲ加算イタシマスルトキハ、輸出輸入各々四億七千二百餘万圓、合計九億四千四百餘万圓ト相成ルノデゴザイマス、之ヲ最近貿易額ノ最モ多カリシ明治四十年ニ比較イタシマスルモ、尙ホ總額ニ於キマシテ一千八百餘万圓ヲ增加イタシテ居リマス、更ニ進ミマシテ昨年中ニ於ケル貿易ノ内容ヲ案ジマスニ、輸入ニ於キマシテハ主トシテ生産原料ヲ增加イタシ、輸出ニ於キマシテハ全製品ヲ增加セルノ實績ヲ認メルノデゴザイマス、以テ我ガ内地ノ產業ガ近時漸ク長足ノ進歩ヲ爲シツ、アルコトヲ知ルコトガ出來ルノデアリマス、之ヲ要シマスルニ大戰役ノ後ヲ承ケマシテ財政上慎重ノ注意ヲ要スベキトキニ當リマシテ、上下心ヲ協セマシテ財政ノ緊縮ヲ斷行イタシ、國債償還ノ大計ヲ確立イタシマシテ、銳意之ガ整理ニ努メマシタルノ結果、公債ノ市價ハ漸次恢復ヲ致シ、戰時勿倉ノ際ニ制定ヲ致シマシタル稅法ハ大體ノ整理ヲ致シマシテ、公債ノ低利借換モ亦進行ノ途ニ在リマス緊急已ムヲ得ザル各般ノ施設、漸次其實行ヲ見ルニ至リマシタルハ本大臣ガ深ク喜ブ所デゴザイマス、諸君、本大臣ハ諸君ガ慎重審議以テ速ニ豫算案ニ協賛ヲ與ヘラレムコ

トヲ偏ニ希望イタスノデゴザイマス
○子爵曾我祐準君 第一ヨリ第四ニ至リマス豫算ニ關シマス審査期限ノ日數ハ今日ヨリ二十日間、三月八日マデヲ期限ト致シマスコトニ致シタウゴザイマス、ドウゾ御賛成ヲ……

○侯爵黒田長成君 贊成イタシマス
○子爵三島彌太郎君 曾我子爵ニ贊成イタシマス
○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第五、帝國大學特別會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

帝國大學特別會計法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十四年二月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

帝國大學特別會計法中改正法律案

帝國大學特別會計法中左ノ通改正ス

第一條中「東京帝國大學及京都帝國大學」ヲ「東京帝國大學、京都帝國大學、東北帝國大學及九州帝國大學」ニ改ム

第二條 前條ノ政府支出金ハ東京帝國大學ニ在リテハ毎年度金百三十五万八千八百三十八圓、京都帝國大學ニ在リテハ毎年度金八十四万圓トシ東北帝國大學及九州帝國大學ニ在リテハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ之ヲ繰入ルヘシ

第十二條 第六條ノ規定ハ東北帝國大學及九州帝國大學ニ關シテハ之ヲ適致シマシテ、公債ノ低利借換モ亦進行ノ途ニ在リマス緊急已ムヲ得ザル各

用セス

附 則

本法ハ明治四十四年度ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際學校及圖書館資金ニシテ東北帝國大學農科大學及東北帝國大學理科大學ノ用ニ供スルモノハ東北帝國大學ノ資金ニ、京都帝國大學資金ニシテ福岡醫科大學ノ用ニ供スルモノハ九州帝國大學ノ資金ニシテ九州帝國大學工科大學ノ用ニ供スルモノハ九州帝國大學ノ資金ニ編入スヘシ
明治四十三年度京都帝國大學特別會計歲入歲出豫算中翌年度ニ繰越ヲ要スルモノニシテ福岡醫科大學ニ關スルモノハ九州帝國大學特別會計ニ繰越スヘシ

東北帝國大學及九州帝國大學工科大學ノ創立費ハ第一條ノ規定ニ拘ラス一般會計ノ所屬トス

〔國務大臣小松原英太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(小松原英太郎君) 本案提出ノ大體ノ理由ヲ説明ヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、本案ハ來年度ヨリ東北及九州帝國大學ヲ開設スルコトノ出來マス運ビニナリマシタノデ、現行帝國大學特別會計法中ニ改正ヲ要スル廉ヲ生ジマシタノデ本案ヲ提出イタシタ次第デゴザイマス、從來東北ニ於キマシテハ、仙臺ノ理科大學ハ開設ノ準備中デゴザイマシタノデ、札幌ニゴザイマシタ農科大學、仙臺ノ理科大學トハ一般ノ學校及圖書館特別會計法ニ據テ經理イタシ來ツタノデゴザイマス、又九州大學ニ於キマシテハ福岡ニ建設ノ設備中ニ屬シテ居リマシタ工科大學ハ尙ホ準備中デゴザイマシタノデ、矢張リ一般ノ學校及圖書館特別會計法ニ據テ經理イタシ來ツテ居ツタノデアリマス、然ルニ來年度ヨリ東北ニ於キマシタハ理科大學ノ設備ガ完成イタシマシテ學科ヲ始メルコトガ出來マス運ビニナリマシタノデ、農科大學ト理科大學トヲ合セマシテ東北帝國大學ト致シマシテ、帝國大學特別會計法ヲ適用スルコトニ致シタイト考ヘルノデアリマス、又九州ノ方ニ於キマシテハ工科大學ノ設備ガ完成ヲ致シマシテ、來年度ヨリ之ヲ開設スルコトガ出來ル運ビニナリマシタノデ、從來京都帝國大學ニ附屬イタシテ居リマシタ福岡ノ醫科大學ヲ京都ヨリ分離イタシマシテ醫科大學ト工科大學トヲ合セテ九州帝國大學ヲ置クコトニ致シマシテ、帝國大學特別會計法ヲ是亦適用スルコトニ致スコトニシタイト考ヘマス次第デゴザイマス、從テ京都帝國大學ニ於キマシテハ福岡ノ醫科大學ヲ分離イタシマスルノデ、從來ノ政府支出金ヲ定メル必要ヲ生ジマス、京都ニゴザイマス帝國大學ニ對シテ政府ノ支出金ヲ定メル必要ヲ茲ニ生ジタノデゴザイマス、是則チ本案ヲ提出イタシマシテ御協贊ヲ願ヒマ

ス理由デゴザイマス、尙ホ茲ニ添ヘテ申上ゲテ置キタイノハ、九州及東北帝國大學ノ經理ニ付キマシテハ、九州ニ於ケル工科、東北ニ於ケル理科大學ハ尙ホ創設中ニ屬シマシテ、其支出金額ガ、完成ノ上デナケレバ確定スル譯ニ參リマセヌノデ、兩三年……當分ノ間、其會計經理ノ方法ハ、毎年度豫算ニ定ムル所ニ依ツテ、一般會計ヨリ繰入レマシテ、之ヲ經理イタシテ參ル必要ガアルノデゴザイマス、第二條ニ於テ此事ヲ規定イタシテ置キマスル必要ガゴザイマスル次第デゴザリマス、大體右様ノ理由ヲ以チマシテ、本案ヲ提出イタシタ次第デゴザイマス、宜シク御審議クダサレマシテ御協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○伊澤修二君 チヨット文部大臣ニ質問イタシタイ、從來帝國大學ト云フモノハ、法科、理科、文科、醫科、ソレダケノ四分科ガ備ハラナクテハ帝國大學トハナラナイト云フコトニナツテ居ルノデゴザイマスガ、唯今文部大臣ノ仰シャル所デハ、東北大學ハ醫科、農科、理科デアルニ拘ラズ、帝國大學ト認メルト云フヤウニ御説明ニナツテ居リマスガ、イツカサウ云フコトニ變リマシタノデスカ、又ハ此會計ノコトノミニ付イテ帝國大學ト云フモノニシテ、大學ノ組織ハ矢張リ從來ノ通りト云フ譯デアリマセウカ、其邊ガドウモ少シ理解サレヌカラ、ドウゾ明瞭ニ御答ヘラ願ヒマス

〔國務大臣小松原英太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(小松原英太郎君) 御答ヘラ致シマス、¹九州及東北帝國大學ハ何レモ二分科大學ヲ包含スルコトノ出來ル運ビニナリマシタノデ、二分科以上包含スル所ノモノデアレバ之ヲ帝國大學トシテ、帝國大學特別會計法ヲ適用シテ宜カラウト考ヘマス、尙ホ九州及東北帝國大學ニ於キマシテハ、將來漸次之ガ完成ヲ圖ツテ行ク方針デアリマス、左様御承知ヲ……

○伊澤修二君 唯今ノ御説明ニ依リマスルト、二分科以上包含スル所ノ大學デアレバ、帝國大學ト認メテ宜カラウト云フヤウニ御説明ニナリマシタヤウデアリマスガ、然ラバ現今ノ帝國大學令ト云フモノハ如何デゴザイマセウカ、帝國大學令ト矛盾スルコトハ無イデゴザイマセウカ、其事ヲ伺ヒタイコトニシタイト考ヘマス次第デゴザイマス、從テ京都帝國大學ニ於キマシテハ福岡ノ醫科大學ヲ分離イタシマスルノデ、從來ノ政府支出金ヲ定メル必要ヲ生ジマス、京都ニゴザイマス帝國大學ニ對シテ政府ノ支出金ヲ定メル必要ヲ茲ニ生ジタノデゴザイマス、是則チ本案ヲ提出イタシマシテ御協贊ヲ願ヒマ

○伊澤修二君 重ネテ申上ゲマスガ、二分科以上ヲ持ツテ居ル所ノ大學ナレウーツ要點ヲ……

〔國大臣小松原英太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(小松原英太郎君) チヨット聽取リ兼ネマシタデゴザイマス、モ

バ帝國大學ト認メテモ宜カラウト云フヤウニ、前キニ御説明ガアリマシタヤ
ウニ聽取リマシタガ、果シテ然ラバ唯今ノ帝國大學令トハ少シク矛盾スル所
ガアリハセヌカト本員考ヘマスガ、其點ハ如何デアソマセウカ、伺ヒタイ
○國務大臣(小松原英太郎君) 分リマシタ、ソレハ別ニ勅令ヲ出シマス積リ
デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六、朝鮮ニ於ケル貨幣整理ノ爲生シタ
ル債務ヲ貨幣整理資金特別會計ニ移屬セシムル件ニ關スル法律案、政府提出、
衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

朝鮮ニ於ケル貨幣整理ノ爲生シタル債務ヲ貨幣整理資金特別會計ニ移屬
セシムル件ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十四年二月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第七、治水費資金特別會計法案、政府提
出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

朝鮮總督府別會計ノ負擔ニ屬スル債務ニシテ貨幣整理ノ爲生シタルモノハ
貨幣整理資金特別會計ニ移屬ス

附則

本法ハ明治四十四年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 舊韓國ガ日本ノ保護制度ノ下ニ立チマシタ初メ
カラ、其紊亂シテ居ル貨幣ノ整理ヲスルト云フコトガ第一著ニ著手セラレマ
シテ、今日ハ其貨幣ノ整理ガ略、著イテ參ッタト云フコトハ御承知ノ通リデ
アリマスガ、然ルニ此貨幣ノ整理ノ爲ニハ舊韓國政府ハ相當ナル資金ヲ要シ
マシタ爲ニ、大分ナ債務ヲ負ウテ居ルノデアリマス、而シテ舊韓國政府ノ計畫
ニ於テハ此債務ハ舊韓國貨幣ノ製造利益ト、補助貨ノ造幣利益ヲ以テ追
之ヲ償却シテ行クト云フ計畫デアリマシタガ、此度帝國ニ併合イタシマシタ
結果ト致シテ、貨幣ノコトモ帝國內地ト朝鮮ト之ヲ別ニスルト云フコトハ不

統一デ宣シクアリマセヌ故ニ、是ハ全然統一シテ、貨幣ハ從來ノ帝國ノ貨幣ノ
ミヲ將來ハ發行スルト云フコトニ致シマス結果、補助貨ノ鑄造利益デ此舊韓
國政府ガ負ヒテ居リマシタ債務ニ償却スルト云フ計畫ガ出來ナクナツテ參ッタ
ノデアリマス、ソレ故ニ此朝鮮ノ貨幣整理ノ爲ニ既ニ負ウテ居リマス債務
ヲバ我一般ノ貨幣整理資金ノ方ノ債務ニ移シテ、全體ノ造幣益金ノ中カラ
之ヲ償却シテ行クト云フ仕組ヲ採ルコトガ相當デアル、斯ウ云フ意味ヲ以テ
此法律案ハ案出イタサレタ次第デアリマシテ、今貨幣整理資金ノ持ツテ居リ
マス益金ハ約千五百万圓ホドアルノデアリマスガ、此朝鮮ヨリ之ヲ移サウト
スル債務ハ約七百万圓餘リ程ニナツテ居リマスノデ、是ダケノ債務ヲコチラ
ニ移シマシタ所ガ、益金ノ中ヨリ拂ツテ尙ホ餘裕ガアリマス次第ナノデ、斯
様ニシテ從來立テ、居リマス計畫ト、此度ノ貨幣統一トヲ相調和セシメタイ
ト云フノガ本案ノ趣意デアルノデアリマス、ドウゾ御審議ノ上ニ御協賛アラ
ムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第七、治水費資金特別會計法案、政府提
出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十四年二月十四日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

治水費資金特別會計法

第一條 治水費資金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ
設置ス

第二條 治水費資金ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ從ヒ一般會計ヨリ繰入ルル
金額、河川法及砂防法ニ依リ府縣ノ納付スル金額並第五條ノ借入金ヲ以
テ之ニ充ツ

第三條 治水費資金ハ河川ノ改修、砂防殖林其ノ他治水事業ニ關スル費途
ニ使用スルモノトス

第四條 治水費資金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲入ニ組入

レ一般ノ歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第五條 治水費資金ニ充ツル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ
借入金ヲ爲スコトヲ得借入金ノ整理又ハ償還ノ爲必要アルトキ亦同シ

第六條 前條ノ規定ニ依リテ本會計ノ負擔ニ屬スル債務ノ償還及利子ノ仕
拂ニ必要ナル金額ハ毎年度一般會計ヲ經由シテ本會計ヨリ之ヲ國債整理

基金ニ繰入ルヘシ

第七條 府縣ノ納付シタル金額ニシテ還付スヘキモノアルトキハ本會計ノ
歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第八條 治水費資金ニ餘裕アルトキハ之ヲ預金部ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ
資金ニ編入スヘシ

第九條 治水費資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ遞次之ヲ翌年度ニ
繰越スヘシ

本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使
用スルコトヲ得

第十條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共
ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第十一條 治水事業完成ノ後本會計ノ負擔ニ屬スル債務ヲ完済シ仍本會計
ニ剩餘アルトキハ之ヲ一般ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第十二條 他ノ特別會計ハ其ノ資金ニ餘裕アルトキハ本會計ニ對シ貸付ヲ
爲スコトヲ得

第十三條 本法ニ定ムルモノノ外本會計ノ收入支出ニ關シ必要ナル規程ハ
勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ明治四十四年度ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年度ニ於ケル河川改良費ノ支出殘額ニシテ明治四十四年度ニ繰
越使用ヲ要スルモノアルトキハ之ニ相當スル金額ヲ一般會計ヨリ本會計ニ
繰入レ本會計ヨリ之ヲ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

○議長(公爵徳川家達君) 第八、府縣災害土木費國庫補助ニ關スル法律案、
政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

府縣災害土木費國庫補助ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十四年二月十四日

貴族院議長公爵徳川家達殿 衆議院議長 長谷場純孝

府縣災害土木費國庫補助ニ關スル法律案
政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣災害土木費ノ一部ヲ補助スルコトヲ得
附 則

本法ハ明治四十四年度ヨリ之ヲ施行ス

災害準備基金特別會計法ハ明治四十三年度限リ之ヲ廢止シ同會計ニ屬スル
資金ハ之ヲ治水費資金ニ編入ス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 唯今議題ニナツテ居リマス兩案ハ相關聯シテ居
リマスカラ一緒ニシテ説明ヲ申上ゲルコトニ致シマス、治水費ノ從來ノ豫算
ハ御承知ノ如ク年度割ニ依リマスト云フト、此四十四年度ハ國庫カラ約三百
五十萬圓、府縣ガ百六七十萬圓、合セテ五百餘萬圓ノ金額ヲ以テ此治水ノ事ヲ
遂行スル筈ニナツテ居リマシタガ、此度先キホド大藏大臣カラモ演説ニナリマ
シタガ、治水ノ根本ノ計畫ヲ定メテ、成ルベク速ニ此河川ノ改良、其他森林ノ
行政、其他ヲバ遂行シヤウト云フコトニナリマシタニ付イテ、治水費ノ國庫ノ
支出額ト云フモノハ此兩三年ニ千二百万圓前後ノ支出ヲ要シマスルシ、其後
ニ至リマシテモ九百万圓内外ノ金額ヲ年々支出シナケレバナラヌト云フコト
ニナツテ居リマスルノデ之ヲ悉ク經常ノ歳入カラ支出スルト云フコトデアリ
マシテハ、國庫ノ財政ノ上ニ於テハ急ニサウ云フ大ナル増額ヲスルト云フコ
トハ困難デアリマスノデ、又地方ト雖モ、關係府縣ト雖モ、サウ云フヤウニ一
時ニ支出スルト云フコトハ難儀デアリマスル故ニ、ドウシテモ一時借入金ヲ
シテ之ヲ完成スルト云フノ外ハナイノデアリマシテ、國庫カラ支出スル金額、
府縣カラ納付スル金額、並ニ借入金、此三ツノモノヲ以テ經營スル譯ニナルノ
デアリマスルガ、治水事業タルヤ、一旦計畫ヲ定メテ遂行シマスル以上ハ、ド
コマデモ計畫通り實行シテ成ルベク速ク此目的ヲ達セヌケレバナラヌノデア
リマスカラ、其借入ニ付イテハ、チャントドコカラ借り、大體確ニ借り得ラレ
ルト云フ計畫ヲ定メル必要ガアリマスノミナラズ、之ヲ使ヒマシタナラバ是

ハドコマデモ完全ニ償却シ得ルト云フ見込ヲ立テ、參ラナケレバナラナイ、

之ガ爲ニ矢張リ此資金ヲ特別會計ニシテ置イテ此資金ハ必ズ是ダケノ財源ニ

ナルト云フコトヲ確カメ、同時ニ是ダケノ財源ガアレバ今政府ノ計畫ヲシタ

年度内ニ於テ河川改良其他ノ事ヲ實施シテ而シテ之ニ依ツテ負ウタ負債ハ矢

張リ國庫ノ支出、地方ノ分擔割ニ依ツテ一定ノ年限間ニ償却シ終ルト云フコ

トヲ確ニスル必要ガアリマスノデ、ソレガ爲ニ此治水費ノ資金ヲ特別會計ニ

スルト云フ計畫ヲ致シタ次第デアリマス、而シテ此治水費ノ資金ヲ特別會計ニ

ニシテ治水ノ事業ヲ遂行イタシマス以上ハ、今日災害準備基金ト云フ特別會

計ガアリマスカラ、災害準備基金ノ元金ハ御承知ノ如ク戰時ノ臨時事件費ヲ

使用シ盡シマシテ今日デハ唯僅ニ殘ツタ金ハアリマスガ、此特別會計ノ名ヲ

存シテ置クト云フ必要ハアリマセヌ、故ニ此特別會計ハ治水費ノ特別會計ノ

出來マスト同時ニ廢止スルノガ相當デアルト思フノデアリマス、然ルニ此災

害準備基金法ノ中ニ府縣ガ災害ニ遭ウテ復舊工事ヲ致ス場合ニ於テ、國庫ハ

之ニ補助ヲ與ヘルコトガ出來ルト云フ規定ガ合セテ規定シテアリマスノデ、

災害準備基金法ヲ全部廢シテ仕舞フト、其規定自身モ亦消滅ニ歸スルト云フ

コトニナリマシテ、ソレデ今日實行シ來ツテ居ル復舊費ガ或ル程度以上ニ上

ボッテ、府縣ハ負擔ニ堪ヘ兼ネルト云フコトヲ見タ以上ハ、國庫ガ若干之ヲ

補助スルト云フコトガナクテハ困ル、又此府縣災害國庫補助ニ關スル法律ト

云フモノヲ制定シテ、一方ニ災害準備基金ト云フ特別會計法ヲ廢スルケレドモ、其法律ノ中ニ規定セラレテ居ツタ必要ナ事項ハ、特別法トシテ之ヲ存セシメヤウト云フ趣意デアリマス、斯様ナ次第デアリマスカラ、兩案共ニ御審議ノ上ニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第九、商法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、第十、商法施行法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、第十一、非訟事件手續法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕
右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也
商法中改正法律案

明治四十四年二月十三日

貴族院議長公爵德川家達殿

右特別委員長
男爵 波多野敬直

〔特別委員ノ修正ニ係ル條ノミヲ載錄〕
〔小字ハ修正文、ハ同削除ノ符號〕

第一百四十二條ノ二 發起人カ會社ノ設立ニ關シ其任務ヲ怠リタルトキハ

○會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス
○其發起人ハ

○會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス
○會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

○會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス
○其取締役ハ

ヲ記載シ取締役之ニ署名シ又ハ記名、捺印スルコトヲ要ス

第二百六十一條 取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役又

ハ株式會社若クハ株式合資會社ノ清算人若クハ支配人カ。其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ會社ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三百三十二條中「署名スルコト」ヲ「署名シ又ハ記名、捺印スルコト」ニ

第一百八十三條ノ二 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及ヒ質入證券ニ代ヘテ倉荷證券

ヲ交付スルコトヲ要ス

倉荷證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百九十九條ノ二 保険契約ノ當時保険契約者カ惡意又ハ重大ナル過失

ニ因リ重要ナル事實ヲ告ヶス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ヶタ

ルトキハ保険者ハ契約ノ解除ヲ得但保険者カ其事實ヲ知リ又ハ

ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ解除權ハ保険者カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一个月間之ヲ行ハ

サルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第四百二十九條 保険契約ノ當時保険契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大

ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ヶス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事

ヲ告ケタルトキハ保険者ハ契約ノ解除ヲ得但保険者カ其事實

ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

第三百九十九條ノ二第二項及ヒ第三百九十九條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十九條ノ二 振出人ハ爲替手形ニ受取人ノ氏名又ハ商號ト共ニ其

爲替手形ノ所持人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前項ノ爲替手形ハ之ヲ無記名式ノモノト看做ス

第四百四十九條ノ三 第四百四十九條ノ規定ハ前條第一項ニ定メタル爲替手形ニ之ヲ準用ス

第五百三十三條中「一週間」ヲ「十日」ニ改ム

五百三十三條ノ二 小切手ノ振出人ハ呈示期間經過前ニハ支拂ノ委託ヲ取消スコトヲ得ス

第五百三十三條ノ三 小切手ノ所持人カ支拂人ノ加入シタル手形交換所ニ小切手ヲ提出シタルトキ

ハ支拂地ニ於テ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示シタルト同一ノ効力ヲ有ス

第五百三十四條 削除

第五百三十四條中「前條第一項ニ定メタル期間」ヲ「呈示期間」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
手形交換所ニ於テ呈示期間内ニ小切手ノ提出及ヒ支拂拒絶アリタル旨ヲ證明シタルトキ亦同シ
第五百三十四條ノ二 前二條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第六百二十二條中「又ハ所持人ニ運送品ヲ引渡スヘキコト」ヲ削除

附 則

第十五條 本法施行前ノ最終ノ財產目錄ニ掲ケタル財產ニ附シタル價額ハ

第一百九十條ノ二〇ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ其取得價額又ハ製作價額ト

看做ス但取得價額又ハ製作價額カ其價額ニ超ユルトキハ此限ニ在ラス

第三十六條 附則第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

第三十六條 第五百三十三條ノ三及ヒ第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

附則第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

第三十九條 明治三十三年法律第十七號ハ之ヲ廢止ス

商法施行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十四年二月十三日

右特別委員長

男爵波多野 敬直

貴族院議長公爵德川家達殿

非訟事件手續法中改正法律案

右可決スヘキモノト議決セリ依テ及報告候也

明治四十四年二月十三日

右特別委員長

男爵波多野 敬直

貴族院議長公爵德川家達殿

〔男爵波多野敬直君演壇ニ登ル〕

○男爵波多野敬直君 唯今議題ニナツテ居リマスル 商法中改正法律案、商法施行法中改正法律案、並ニ非訟事件手續法中改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結

果ヲ一括シテ御報道イタシマス、本委員會ハ去月二十三日ニ開會イタシマシテ、正副委員長ノ選舉ヲ行ヒ、引續キ審査ニ取掛リマシタ、先づ商法ヨリ審査ヲ始メマシテ、逐條、政府委員ノ説明、委員ノ質問等ニ數日ヲ費ヤシマシタガ、御承知ノ通リ商法ノ改正ニ付イテハ當業者ヨリ種々修正ノ希望モ申出テ居リマス、又其改正ノ箇條モ二百餘條ニ亘リテ居リ、殆ド商法全部ニ關係ヲ及ボシテ居ルト云フ有様カラシテ、審査ノ進行ヲ圖リマシテ、特別委員中ヨリ七名ノ小委員ヲ設ケマシテ之ニ審査ノ委託ヲ致シマシタ次第デアリマス、小委員會ハ又數日間、會議ヲ致シマシテ、最モ鄭重ニ最モ綿密ニ逐條ノ審議ヲ遂ゲ、傍ラ實業團體即チ商業會議所、手形交換所、日本倉庫聯合會、保險會社協會、其他種々ノ當業者ヨリ申出デ、居ル所ノ修正意見ヲ調査イタシマシテ一ノ修正案ヲ議決シテ之ヲ本委員會ニ移シマシタ、本委員會ハ尙ホ商法改正案ノ全部ニ付キ審議ヲ致シマシタ末、御手許ニ配付ニナツテ居リマスル通リ二十餘條ノ修正ヲ爲シ、其他ハ政府原案ノ通リ全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ、而シテ政府委員ノ説明、並ニ委員ノ質問等ハ速記録ニテ御承知ノコト、存ジマスカラ之ヲ省キマシテ、委員會ニ於テ修正ヲ致シマシタル箇條ニ就キ簡単ニ説明ヲ致シマス、第一百四十二條ノ二、本條中「其任務ヲ怠リタルトキハ」ト云フ其下ニ「其發起人ハ」ト云フ五字ヲ加ヘマシテ本條ニ依リ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズル發起人ハ任務ヲ怠リタル者ニ限ルト云フ趣意ヲ一層明瞭ナラシメムコトヲ期シマンタ、第一百四十八條、原案ニ於テ本條ヲ改正シタル趣意ハ同時ニ此署名スペキ場合ニ關スル單行法、即チ明治三十三年法律第十七號、此法律ヲ廢止イタシマシテ商法中特別ノ明文ナキ場合ニ付キマシテハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代ヘルコトヲ得ザルモノトナシタル次第デアリマス、然ルニ商事ノ實況トシテ今日ノ程度ニ於テハ未ダ遽ニ署名ヲ強ヒ難キ事情アルノミナラズ、商法施行以來、十餘年ノ經驗ニ徵シマシテ記名捺印ニテ弊害アリト認ムル程ノコトモ無イヤウニ考ヘラレマスカラシテ、本條ノ改正及之ニ同趣意ヲ有スル改正ハ總テ廢止ニ致シマシタ、第一百七十七條、本條ノ修正モ亦第百四十條ノ二ノ修正ト同一デゴザイマシテ、本條ニ據リ會社ニ對シテ連帶ノ責任ヲ負擔スル取締役ハ任務ヲ怠リタルモノニ限ル、又第三条ノ修正モ亦第百四十條ノ二ノ修正ト同一デゴザイマシテ、本條ニ據リ會社ニシタル者ニ限ルト云フコトヲ明瞭ナラシメマシタ次第デアリマス、第百九十九條ニ對シテ連帶責任ヲ負擔スル取締役ハ法令又ハ定款ノ規定ニ反スル行爲ヲナシタル者ニ限ルト云フコトヲ明瞭ナラシメマシタ次第デアリマス、第百九十九條ノ修正モ亦第百四十條ノ二ノ修正ト同一デゴザイマシテ、本條ニ據リ會社ニ對シテ連帶ノ責任ヲ負擔スル取締役ハ任務ヲ怠リタルモノニ限ル、又第三

致シマスニ當リマシテ財產ノ取得價額又ハ製作價額ト其財產ノ時價トノ差額ハ利益トシテ財產目錄ニ掲ゲルコトハ出來ナイ規定デアリマス、然ルニ斯ノ實況ニ付キ疑惑ヲ生ズルノ嫌ヒガゴザイマスル故ニ、本條第一項ハ之ヲ削除イタシマシタ、又第二項ハ是ハ適當ナル規定デゴザイマスルカラシテ、是ハ少々法文ヲ加ヘマシテ存置スルコトニ相成リマシタ、第百九十四條、本條第一項ヲ修正イタシマシタル理由ハ、準備金ノ積立ハ損失ノ填補ヲ目的トスルモノナルコト、及其積立ハ現實ニ利益ノ配當ヲ爲サル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ要スル趣意ヲ明カニ致シマシタ、且ツ第百九十四條ノ二ト相俟ッテ配當其他處分シ得ベキ利益ノ限度ヲ明カニ致シマシタ、第百九十四條ノ二、第百九十九條ノ二ノ第一項ヲ削リ財產ノ取得價額又ハ製作價額ト時價トノ差額ハ差益トシテ利益中ニ算入スベキモノト致シマシタ、ケレドモ差益ハマダ處分セザル財產デアリマスカラ、其時價ノ騰貴シタル場合ニ於テ即チ差益ガアルノデアリマス、故ニ若シ之ヲ配當シ又ハ利益トシテ他ニ流用スルコトヲ許シマスレバ、後日其財產ノ價額下落シタル場合ニ於テ償フベカラザル損失ヲ生ズルノデアリマス、差益ノ配當ハ會社ノ經營ニ不利ナルコトハ申上ダルマデモナイコトデアリマシテ、其點ニ關シマシテハ原案ノ趣意ト同様ニ差益配當其他利益トシテ處分ヲ禁ズルト云フコトヲ茲ニ明カニ致シマシタル次第ゴザイマス、第百九十五條、本條第一項ノ趣意ハ第百九十四條ノ規定ニ依ツテ自ラ明カナルノミナラズ、同項ヲ存置スルハ法文ノ體裁上、前條ト調和セザル所ガゴザイマスカラシテ、之ヲ削除イタシマシテ、且ツ第二項ヲ改メ準備金ヲ積立テズシテ配當ヲナシタル場合ナルノミナラズ、差益ヲ控除セズシテ配當ヲ爲シタ場合ニ於テモ、會社ノ債權者ハ之ヲ會社ニ返還セシムルコトヲ得タルト同一ノ理由ニ依ツテ此點ノ規定ハ之ヲ削ルコトニ相成リマシタ、第二百六十一條、本條中「支配人カ」ノ下ニ「會社ニ損害ヲ生スヘキコトヲ知リテ」ト云フ十六字ヲ加ヘマシタ、蓋シ原案ノ趣意トスル所モ亦會社ノ財產上ニ損害ヲ生ズベキコトヲ知ツテ背任務ノ行爲ヲナシタル場合ニ限ツテ處罰スベキモノトナシタルコトハ明瞭デゴザイマスガ、法文ノ解釋トシテハ疑ヒモアルヤウデアリマスカラ、明文ヲ以テ其趣意ヲ明カニ疑惑ヲ生ゼシメザラム

コトヲ努メタノデゴザイマス、第三百三十二條、本條ノ修正モ亦彼ノ署名ニ關スル單行法ノ存置ヲ相當ト致シマシタル結果デゴザイマス、第三百三十八條ノ二、倉庫證券ニ關スル現行ノ二枚證券主義ニ併セテ一枚證券主義ヲ採用スルヲ取引ノ便宜ニ適スルモノト認メマシテ、本條ニ矢張リ新ニ倉荷證券ニ關スル規定ヲ設ケ、其證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用スルコトニ致シマシタ、第三百九十九條ノ二、本條中損害保険契約ヲ爲スニ際シマシテ、保險契約者ガ重要ナル事項ニ付イテ不實ノ告知ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ガ之ヲ知ルコトヲ得ベカリシトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ザルノ規定ガゴザイマス、然ルニ「之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキ」ト云フ文字ハ誤解ノ虞ガゴザイマスカラ、之ヲ改メマシテ「過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキ」ト爲シテ、其疑義ナカラシヌムヤウニ致シマシタ、第四百二十九條、本條モ亦第三百九十九條ノ二ノ修正ト同一ノ修正デゴザイマス、第四百四十九條ノ二、本條ハ指名持參人式ノ手形即チ指名シタル特定ノ人、又ハ持參人ニ支拂ヲ爲スベキ旨ノ記載アル手形ノ效力ヲ定メ、之ヲ無記名式ノモノト看做スベキ旨ヲ規定シタル條デゴザイマス、而シテ其規定ハ第二百八十二條ニ據リ他ノ有價證券ニ準用ガレテゴザイマス、然ルニ貨物引換證、又ハ倉庫證券ノ如キ權利者ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ必要トセル證券ヲ指名持參人式ニテ發行シタル場合ニ於キマシテ、其證券ハ無記名證券ト看做サル、結果、延イテ無記名式證券ヲモ有效トスル趣意ナルヤ、將タ斯ノ如ク氏名又ハ商號ノ記載ヲ必要トスル證券ハ無記名式タルコトヲ得ザル結果、是等ノ證券ニハ第二百八十二條ノ準用ナキモノナルヤニ付イテ必然疑義ガ生ズベキコトデゴザイマス、故ニ本條ニ於テ無記名式證券ト看做シタル趣意ヲ改メマシテ「無記名式ノモノト同一ノ效力ヲ有ス」ト致シマシテ、無記名式ノ貨物引換證又ハ倉庫證券ノ如キハ之ヲ認メマセヌケレドモ、指名持參人式ノモノハ之ヲ有效ト致シ、無記名式ノ證券ト同一ノ效力アルモノト致シマシテ、ソレ等ノ疑義ナカラシヌムコトヲ期シタルノデゴザイマス、第四百四十九條ノ三、原案ノ如ク指名持參人式ノ手形ヲ無記名式ノモノト看做シマスレバ、第四百二十九條ノ規定ハ當然適用セラレマスモ、前條ヲ修正シタル結果、其當然ノ適用ナキニ至リマシタ、故ニ右第四百二十九條ノ規定ヲ指名持參人式ノ手形ニ準用スベキ旨ヲ規定スルノ必要ガゴザイマシテ、新ニ本條ヲ設ケマシタル次第デゴザイマス、第五百三十三條、本條ノ修正ヲ致シマシタル理由ハ、現行ノ

規定ニ於テ小切手ノ呈示期間ヲ一週間ト定メテアリマスガ、是ハ一週間ニテハ短キニ失スルト云フ故ノ以テ之ヲ十日ニ延ベマシテ、取引ノ便宜ニ適セシメタル次第デゴザイマス、第五百三十三條ノ二、本條ヲ設ケマシタル理由ハ、小切手ノ呈示期間後ノ支拂ノ效力ヲ定メ、支拂ノ委託ノ取消サレザル限りハ、其支拂ハ之ヲ有效トシ、且ツ振出人ハ呈示期間内ニ小切手ノ支拂ノ委託ヲ取消スコトヲ得ナイト云フコトヲ明カニ致シマシタ次第デゴザイマス、第五百三十三條ノ三、小切手ノ支拂拒絶ニ付キマシテハ手形交換所ノ證明ヲ以テ拒絶證書ニ代ヘルコトヲ得セシムルノ趣意ヲ以テ先づ小切手ノ支拂ヲ求ムル爲ニスル呈示ニ代ヘテ其小切手ヲ手形交換所ニ提出スルコトヲ得セシムル爲ニ新ニ本條ヲ設ケマシタ次第デアリマス、第五百三十四條、小切手ノ支拂拒絶證書作成ニ代ルベキ簡易ノ手續ヲ定メタル現行ノ規定ハ取引ノ便宜上、尙ホ之ヲ存續スルノ必要ヲ認メマシテ本條ヲ復活イタシマシタ、且ツ第二項ヲ設ケマシテ手形交換所ノ證明書ヲ以テ拒絶證書ニ代フルコトヲ得ベキ旨ヲ規定イタシマシタノデアリマス、第五百三十四條ノ二、小切手ノ提出ヲ受ケ且ツ拒絶證書ニ代ルベキ證明書ヲ作ルコトヲ得ベキ手形交換所ハ主務大臣ノ指定シタルモノニ限ルヲ必要ト認メテ本條ヲ規定イタシマシタ、第六百二條、本條ノ修正ハ貨物引換證ト船荷證券ノ所持人ノ記載ニ關スル形式ヲ同一ナラシヌムトスル目的ニ外ナリマセヌ、附則中第十五條ノ修正ハ第百九十六條ノ修正ハ手形交換所ノ證明書ヲ以テ小切手ノ支拂拒絶證書ニ代ヘルコトヲ得ベキモノト爲シタル結果デゴザイマス、第三十九條ヲ削リマシタノハ商法中署名スベキ場合ニ於テ尙ホ記名捺印ヲ以テ之ニ代フルヲ得セシムルノ必要ヲ認メマシテ削リマシタ次第デアリマス、要スルニ委員會ノ修正ハ法文ノ意義ヲ明確ニシ疑義ナカラシヌムコトニ努メマスト同時ニ、商業上信用ノ確実ヲ期シ、併セテ商取引ノ便宜ヲ圖リタルニ過ギナイノデアリマス、次ニ商法施行法中改正法律案デアリマス、此改正ハ商法中改正法律案ノ罰則ノ規定ト權衡ヲ得セシムル爲ノ改正デ、即チ相當ノ改正ト認メマシテ委員會ニ於テハ原案ノ通り可決イタシマシタ、又非訟事件手續法中改正法律案ハ商法中ノ改正ニ併フ改正デゴザイマシテ、中ニハ二三施行法ノ不備ヲ補ヒ、又ハ手續ヲ簡易ニ致シタル點モゴザイマスルガ、總テ適當ノ改正ト認メマシテ是亦委員會ハ原案ノ通り可決イタシマシタ、此段御報告ヲ致シマス

○奥山政敬君 チヨット質問ヲ……三百九十九條ノ二ト第四百二十九條、是ガ詰リ同一ノコトガ書イテアルヤウニ思ハレマス、唯三百九十九條ノ二ト此四百二十九條トノ違ヒハ、一方ノ方ニハ「被保險者」ト云フモノガ無シスルダケノ違ヒデアリマスガ、是ハ斯ウ書カヌケレバナラヌ何カ必要ガアルデアラウト考ヘマスケレドモ、私ニハ能ク分リマセヌデゴザイマスカラ、其書カヌケレバナラヌ必要ノ趣意ヲ承リタイノデゴザイマス、ソレカラシマシテ此第四百二十九條ニ同ジコトヲ書カヌケレバナラヌ必要ガアリトシマスレバ、此第四百二十九條ノ末項ニ「第三百九十九條ノ二第二項」トアリマスガ、之ヲ三百九十九條ノ二」ダケデ止メマシテ「第二項」ト云フモノヲ取ツテ置イタナラバ重複シナクテモ宜イヤウニモ亦考ヘマス其邊ノ所ヲ一應質問イタシタウゴザイマス、ドウゾ詳細ニ御答辯ヲ願ヒマス

○男爵波多野敬直君 唯今ノ奥山君ノ御質問ハ第三百九十九條ノ二ト第四百二十九條ノ御質問デアリマスナ

○奥山政敬君 左様デゴザイマス

○男爵波多野敬直君 是ハ實質ニ於テハ格別變リマセヌガ「之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキ」ト云ツテハ大分事實ニ付イテ色ミ疑ヒガアリ、今日マデ争ヒモアツタサウデアリマス、ソレデ之ヲ「過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキ」ト明カニシタ趣意デゴザイマス

○奥山政敬君 私ノ質問ノ趣旨ハ今ノ御答辯トハ違ヒマス、私ハ「知ルコトヲ得ヘカリシ」ト云フコトノ質問デハナイノデアリマス、此三百九十九條ノ二ト四百二十九條ト云フモノガ同ジコトガ詰リ書イテアル、何ガ違ヒマスカト云ヒマスト、唯「被保險者」ト云フモノガ前ノ條ニ入ツテ居リマセヌデ、此四百二十九條ダケニ「被保險者」ト云フモノガ這入ツテ居リマス、何モ違ヒハナイニ同ジコトガ書イテアリマスガ、此「保險契約ノ當時保險契約者」ト云フモノガ二遍出デ居ル、同ジ規定ニナツテ居ル、之ヲ二遍書カヌケレバナラヌト云フモノハ如何ナル必要ガアルカ、其趣旨ヲ承リタイト云フノガ質問ノ趣旨デアリス

○富井政章君 鄰席ニ居リマスカラ私カラ御答ヘヲ致シマスガ、第四百二十九條ニハ恰モ「被保險者」ト云フモノガ這入ツテ居リマスカラ、單ニ三百九十九條ノ二ヲ準用スルダケデハ宜シクナイノデアリマス、三百九十九條ノ二ハ損害保險ノ規定デアリマス、四百二十九條ハ生命保險ノ規定デアリマス、ソルル如ク四百二十九條ノ一項ヲ取ツテ仕舞ヒマシテ第二項ノ三百九十九條ノ二ト書イテ、三百九十九條ノ第二項ト言ハズシテ、三百九十九條ノ二ト書キマシテハ生命保險ノ場合ニ保險契約者デナイ所ノ被保險者ニ惡意又ハ重大ナル過失ガアツタキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ト云フコトノ結果ガ生ジナイノデアリマス、唯保險契約者ニ惡意又ハ重大ナル過失ガアツタル場合ノミ損害保險ノ規定ガ準用サレテ解除ノ結果ニナリマスケレドモ、被保險者ニ唯今申シタル事實ガアツタ場合ハ單ニ三百九十九條ノ二ヲ準用シタダケデハ此結果ニナラナイノデアリマス、ソレ故ニ體裁ハ少シ惡ルイノデアリマスケレドモ三百九十九條ノ二ト同ジヤウナ規定ヲ再び繰返シテ四百二十七條ニ書カネバナラヌコト、ナツタノデアラウト思ヒマス、是ハ委員會ニ於テ改正セラレタ點デハアリマセヌケレドモ、委員會ニ於テ原案ヲバドウ解シタト云フコトニ付イテ、チヨト委員ノ一人トシテ私ノ考ヘヲ申上ゲマス

○奥山政敬君 唯今、富井君ノ御説明ニ於テ大略ハ分リマシタガ、政府ノ意見ヲ少シ承リタイノデス、果シテ其通リデアリマスカ、又他ニ何カ理由ガゴザイマスナラバ其理由ヲ承リタイ

〔政府委員齊藤十一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(齊藤十一郎君) 唯今ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、御質問ニ對スル御答ヘノ内容ト致シテハ富井博士カラ十分御述ベニナリマシテゴザイマスガ、尙ホ形ノ點ニ付キマシテ其一斑ヲ補ツテ置キタイト思ヒマス、現行法ニ於キマシテモ損害保險ノ場合ニ一つ箇條ガゴザイマシテ、ソレカラ此生命保險ノ所ニモ尙ホ修正案ノ四百二十九條ニ當リマス箇條ガアルノデアリマス、現行法ヲ御覽ニナリマスレバ矢張リ同ジヤウナ事柄ガ二箇所ニ規定シテアルコトガ直グ御分リニナルノデアリマシテ、現行法ニ於キマシテ此二箇所ニ規定ノゴザイマスル其理由ハ唯今富井博士ノ御述べニナリマシタ理由ニ外ナラヌモノト思フノデアリマス是ダケヲ補ツテ置キマス

○岡野敬次郎君 私モ特別委員ノ一人ト致シマシテ唯今奥山君カラ御尋ネノアツタ點ニ付イテ、三百九十九條ノ二ガアルニ拘ラズ、第四百二十九條ヲ要スル所以ヲ簡單ニ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、此二箇條ヲ要スル所以ハ損害保險ニ於ケル被保險者ト云フ者ト、生命保險ニ於ケル被保險者ト云フ者ト達フノデアリマス、例ヘバ火災保險ノ例ヲ採ツテ申上ゲレバ、商品ヲ

保険ニ付スル場合ニ於テ、其商品ノ所有者、即チ保険利益ノ主體ト云フモノト、ソレカラ保険會社ト契約ヲ爲ス當事者タル所ノ保険契約者ト云フモノハ別々アリマス、ソレデ其商品ノ所有者ニアラザル者ガ保険會社ト契約ヲ爲ストキニハ其保険契約者ダケノ告知事項デ足リルノデアル、トコロガ生命保険ニナリマシテハ例ヘバ甲ノ身體ヲ保険ニ付スル場合ニ於テ乙ガ保険契約者トナツタ、此場合ニ乙ナル保険契約者ニハ何等不實ノ申立ノ責ムベキモノハ無カツタケレドモ、併ナガラ被保険者タル人、即チ甲ガ自分ノ身體上ノ例ヘバ健康ニ付イテ殊ニ不實ノコトヲ言ツタナラバ、此場合ニ於テハ矢張リ保険會社ニ於テ契約ヲ解除スル權利ヲ有タナケレバナラヌノデアリマス、ソレ故ニ此三百九十九條ノ二アルニ拘ラズ、被保険者ト云フ文字ヲ加フルノ必要アルト云フ所カラ、第四百二十九條ヲ設ケタノデアリマス、ソレデ若シモ被保険者ト云フコトガ不必要デアルナラバ奥山君ノ御質問ニナリマシタ通リニ全然準用シテ差支ナイノデアリマスケレドモ、唯今申上ゲタ通リノ區別ガアルニ依リマシテ、特ニ第四百二十九條ヲ設ケタ譯デアリマス。

○議長(公爵徳川家達君) 他ニ發言者モ無イト認メマスカラ、採決ヲ致シマス、唯今波多野特別委員長ノ報告セラレマシタ三案トモ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス

○男爵波多野敬直君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ……

○男爵久保田讓君 贊成

○伯爵廣澤金次郎君 起立者 ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○男爵久保田讓君 起立者 ヒマス

○伯爵廣澤金次郎君 起立者 ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ商法施行法中改正法律案、全部ヲ問題ニ供シマス

〔「伯爵廣澤金次郎君發言ノ許可ヲ求ム」〕

○議長(公爵徳川家達君) 廣澤伯爵ハ……

○伯爵廣澤金次郎君 是ハ委員會デモ別ニ修正ガ無イモノデアリマスカラ讀會省略ノ手續ニ於テ直チニ確定セラレムコトヲ望ミマス

○議長(公爵徳川家達君) 廣澤伯爵ニ申上ゲマス、三案トモ二讀會ヲ開クベキヤ否ヤノ決ヲ採リマシタ以上ハ少シ規則ニ違反シテハ居ラヌカト思ヒマス

〔「伯爵廣澤金次郎君「撤回イタシマス」ト述フ〕

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員長ノ報告通リデ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシト」呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○男爵波多野敬直君 直チニ三案トモ第二讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

○男爵久保田讓君 起立者 ヒマス

〔「其他「贊成」ト呼フ者多シ」〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 此際議題ト致シマスノハ、議事日程第九ノ商法中改正法律案、全部ヲ問題ニ供シマス

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 全部、特別委員長ノ報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ト、ソレカラ保険會社ト契約ヲ爲ス當事者タル所ノ保険契約者ト云フモノハ別々アリマス、ソレデ其商品ノ所有者ニアラザル者ガ保険會社ト契約ヲ爲ストキニハ其保険契約者ダケノ告知事項デ足リルノデアル、トコロガ生命保険ニナリマシテハ例ヘバ甲ノ身體ヲ保険ニ付スル場合ニ於テ乙ガ保険契約者トナツタ、此場合ニ乙ナル保険契約者ニハ何等不實ノ申立ノ責ムベキモノハ無カツタケレドモ、併ナガラ被保険者タル人、即チ甲ガ自分ノ身體上ノ例ヘバ健康ニ付イテ殊ニ不實ノコトヲ言ツタナラバ、此場合ニ於テハ矢張リ保険會社ニ於テ契約ヲ解除スル權利ヲ有タナケレバナラヌノデアリマス、ソレ故ニ此三百九十九條ノ二アルニ拘ラズ、被保険者ト云フ文字ヲ加フルノ必要アルト云フ所カラ、第四百二十九條ヲ設ケタノデアリマス、ソレデ若シモ被保険者ト云フコトガ不必要デアルナラバ奥山君ノ御質問ニナリマシタ通リニ全然準用シテ差支ナイノデアリマスケレドモ、唯今申上ゲタ通リノ區別ガアルニ依リマシテ、特ニ第四百二十九條ヲ設ケタ譯デアリマス。

○議長(公爵徳川家達君) 他ニ發言者モ無イト認メマスカラ、採決ヲ致シマス、唯今波多野特別委員長ノ報告セラレマシタ三案トモ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス

○男爵波多野敬直君 直チニ三案トモ第二讀會ヲ開カレムコトヲ……

○男爵久保田讓君 起立者 ヒマス

○伯爵廣澤金次郎君 起立者 ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ商法施行法中改正法律案、全部ヲ問題ニ供シマス

〔「伯爵廣澤金次郎君發言ノ許可ヲ求ム」〕

○議長(公爵徳川家達君) 廣澤伯爵ハ……

○伯爵廣澤金次郎君 是ハ委員會デモ別ニ修正ガ無イモノデアリマスカラ讀會省略ノ手續ニ於テ直チニ確定セラレムコトヲ望ミマス

○議長(公爵徳川家達君) 廣澤伯爵ニ申上ゲマス、三案トモ二讀會ヲ開クベキヤ否ヤノ決ヲ採リマシタ以上ハ少シ規則ニ違反シテハ居ラヌカト思ヒマス

〔「伯爵廣澤金次郎君「撤回イタシマス」ト述フ〕

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員長ノ報告通リデ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシト」呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○男爵波多野敬直君 直チニ三案トモ第二讀會ヲ開カレムコトヲ……

○男爵久保田讓君 起立者 ヒマス

〔「其他「贊成」ト呼フ者多シ」〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 此際議題ト致シマスノハ、議事日程第九ノ商法中改正法律案、全部ヲ問題ニ供シマス

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 二讀會決議ノ通リテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十一ノ法案全部ヲ問題ニ供シマス、特

別委員長ノ報告通リテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○男爵波多野敬直君 直チニ三讀會ヲ開カレムコトヲ……

○伯爵大原重朝君 贊成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ直チニ第三讀會ヲ開キマス、二讀會ノ決議通リテ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十二、不動産登記法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告

不動産登記法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十四年二月十三日

右特別委員長

男爵 波多野 敬直

〔男爵波多野敬直君演壇ニ登ル〕
貴族院議長公爵徳川家達殿

○男爵波多野敬直君 不動産登記法中改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報道イタシマス、本案ハ唯今議決ニナリマシタル三案ト同時ニ同一ノ委員

ニ御付託ニナリマシタ、ソレデ同一ノ委員會デ同時ニ調査ヲ致シマシタガ、本案ハ皇室財產令御制定ノ結果、世傳御料又ハ皇族ノ遺留財產ニ關シマシテ登記ノ手續ガ必要ニナリマシタ、ソレ故ニ其手續ヲ規定スルト云フ法案デゴザリマシテ、別段委員會ニ於キマシテハ異論モ無ク満場一致ヲ以テ可決イタシマシタ、此段御報告ヲ致シマス、付キマシテハ本案ハ極メテ簡単ナ案デゴザイマスルカラ、讀會省略ヲ以テ可決アラムコトヲ希望イタシマス

○伯爵廣澤金次郎君 贊成シマス

○村田保君 贊成

○子爵本莊壽巨君 贊成

○小野田元熙君 贊成

○子爵堤功長君 贊成

○男爵周布公平君 贊成

○男爵中川興長君 贊成

○男爵金子有卿君 贊成

○男爵金子有卿君 贊成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 波多野男爵ノ讀會省略ノ動議ニ定規ノ賛成者ガアツタト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案、特別委員長ノ報告通リテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十三、鑛業法中改正法律案、政府提出、

第一讀會ノ續、委員長報告

鑛業法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十四年二月十五日

右特別委員長

伯爵 柳原 義光

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵柳原義光君演壇ニ登ル〕

○伯爵柳原義光君 諸君、本員ハ唯今議題ニナツテ居リマスル鑛業法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報道イタシマス、此委員會ハ一昨日開キ務大臣、政府委員モ出席イタサレマシテ、段々説明モサレ委員カラ質問討議ノ末、大多數ヲ以テ本案ヲ可決シタノデアリマス、其理由ハ極メテ是ハ簡単ナモノデゴザイマシテ、要スルニ此案ヲ改正シタ趣旨ハ五ツノ要點ガアルノデアリマス、第一ノ要點ハ此十一條中ノ改正ニ係ルモノデゴザイマスルガ、即チ營造物及建物ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テ鑛業自體、即チ鑛物ヲ採掘シタリ又ハ製鍊ヲスルガ如キコトハ營造物或ハ建物ノ保安上障害ガアルカモ知レマセヌカラシテ、是ハ所轄官廳ノ許可又ハ所有者及關係人ノ承諾ヲ受ケシムル必要ガアルノデアリマスルガ、單ニ鑛業ノ爲ニ使用スル場合、例ヘバ鑛物デアルトカ土石デアルトカ用材ナドノ物置ヲ設置スルトカ、或ハ又遠距離ニ亘ツテ設置スルノ必要アル鑛業用ノ電線、電話、鐵柵、軌道、鐵道ノ如キニアリマシテハ假令三十間以内ノ場所ニ之ヲ設クルモ何等危害ノ虞ナキノミナラズ寧ロ鑛業上ニ使用スル必要ガアリマスルカラシテ、本條ノ如キ制限ヲ存置スルノハ其當ヲ得ナイノミナラズ寧ロ本條ノ如キ窮窟ナル制限ハ之ヲ廢メテ仕舞ツテ他ノ産業ノ經營ニ關シテ其類ヲ見ザル事項ニ屬シマスカラシテ、斯ノ如キコトハ削除スル方ガ鑛業ノ進歩ニ能ク適シタモノデアラウト云フノデ、之ヲ斯ノ如ク改正イタシタノデアリマス、ソレカラ第二ノ要點ハ鑛業權者カ他ヨリ鑛石ヲ買入レテ其鑛石ヲ製鍊スル場合ニ於テ其買入レタ所ノ鑛石ノ量ガ自己ノ採掘ニ係ル所ノ鑛量ニ超過セザル限りハ其買入レタ鑛石カラ産出スル所ノ鑛產物ニ對シテハ課稅ヲ免除スルコトニスルノデアリマス、即チ是ハ矢張リ小鑛業ノ發達ヲ促スト云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、第三ノ要點ハ鄰接ノ鑛業權者ニ於テ承諾アル場合ニハ重複シテ鑛區ヲ設定シテモ差支ナイト云フ途ヲ開イタノデアリマス、是モ鑛業經營上ノ便利ヲ圖ツタモノデアリマス、第四ハ試掘期限滿了後十日以内ニ於テ、前試掘權者ヨリ更ニ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ、他ノ出願者ヨリハ更ニ優先權ヲ有セシメテ以テ前試掘權者ノ權利ヲ保護スル規定ヲ設ケラレタノデアリマス、是モ矢張リ鑛業ノ發達ヲ圖ル趣意ニ外ナラヌノデアリマス、ソレカラ第五ハ今マデ農商務大

臣ノ職權ニ屬スル事項中、輕易ノ事項ニ付イテハ鑛山監督署長ニ委任スルコト、シテ、矢張リ是モ事務ヲ成ルベク簡単ニシテ敷告ヲ圖ルト云フ趣旨カラ

此改正ヲ致サレタノニ外ナラヌノデアリマス、要スルニ此案ハ斯ノ如ク極メテ單純明白ナ案デゴザイマスルニ依ッテ、願ハクハ讀會ヲ省略セラレテ直チニ可決アラムコトヲ切望イタス次第、デアリマス、比役即報告シタシマス

○伯爵大木遠吉君 読會省略ニ贊成

○伯爵廣澤金次郎

○子爵烏居忠文君 賛成

○子爵一柳末德君 贊成

○男爵北島齊孝君
贊成

○作節文庫重朝著

○男爵武井守正君 贊成

○議長（公爵徳川家達君） 柳原伯爵

タト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○講長(公篤徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマ

○議長(公爵徳川家達君) 本案、特別委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセ

「異議ナシト呼フ者アリ

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマニ

○義長（公爵志川家達君） 義事日程第十四、公共團體ニ對スレ工事補助費案

（議長）公會堂ノ家達君　議事日程第一回　公共團體ニ對スル一事補助費繰越使用ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告
　公共團體ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十四年二月十五日

右特別委員長

石井省一郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔石井省一郎君演壇ニ登ル〕

○石井省一郎君唯今、議長ヨリ報告ニナリマシタ議題ニ付キマシテ特別委員會ノ經過ヲ御報告申シマス、委員會ハ一昨十五日ニ開キマシテ、直チニ可決ニナリマシタ次第デゴザイマス、此案ハ極メテ簡單ノ案ニシテ且ツ明瞭デゴザイマスカラ、一二ノ質問モゴザイマシタケレドモ、皆實際ノ手續等ヲ定メタニ過ギマセヌノデ、全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシテゴザイマス、尙ホ政府委員ノ説明ヲ承リマスル所ニ依リマスト、從來御承知ノゴザイマス通りニ、公共團體ニ國庫ヨリ補助スベキ金額ハ、其工事ノ年度ニ依リマシテ補助イタシ來フテ居リマスガ、然ルニ公共團體ノ工事カ往々或ル事故ニ依リマシテ年度以外ニ至ルコトガゴザイマス、ソレ等ノ場合ニ於キマシテハ工費ヲ支給イタシマスルニ甚ダ差支ノ次第ガゴザイマスルデ、此議案ヲ發セラレマシタ次第デゴザイマス、實際上至極適當ノ案ト考ヘマスカラ、總テ全會一致ヲ以テ可決シタ次第デゴザイマス、別ニ込入ツタコトモ無イノデゴザイマス、チヨット此段ヲ御報告ヲ申上げテ置キマス、尙ホ簡單ナ議案デゴザイマスカラ讀會ヲ省略サレマシテ直チニ可決アラムコトヲ希望イタシマス

○岩村兼善君 贊成
○男爵田健治郎君 贊成
○伊澤修二君 贊成
○伯爵廣澤金次郎君 讀會省略贊成
○伯爵大原重朝君 贊成
○子爵本莊宗義君 贊成
○男爵周布公平君 贊成
○淺田德則君 贊成
○男爵中川興長君 贊成
○男爵佐野延勝君 贊成
○男爵原口兼濟君 贊成
○谷新助君 贊成
○議長(公爵徳川家達君) 石井君ノ讀會省略ノ動議ニ定規ノ賛成者ガアツタト認メマス、讀會省略ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 此際諸君ニ御諮リヲ致シマスガ、議事日程第七ト第八ノ法案ハ同一ノ委員デ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ書記官長ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔太田書記官長朗讀〕

帝國大學特別會計法中改正法律案特別委員

伯爵松木宗隆君 子爵前田利定君 男爵北大路實信君

男爵諫早家崇君 澤柳政太郎君 平山靖彦君

伊澤修二君 本間千代吉君 下村辰右衛門君

朝鮮ニ於ケル貨幣整理ノ爲生シタル債務ヲ貨幣整理資金特別會計ニ移屬セシムル件ニ關スル法律案特別委員

伯爵川村鐵太郎君 子爵唐橋在正君 子爵井伊直安君
男爵南光利君 男爵外松孫太郎君 男爵北垣國道君
男爵清水資治君 小野光景君 絲原武太郎君
治水費資金特別會計法案外一件特別委員

伯爵清閑寺經房君 男爵北垣國道君 子爵堤功長君

子爵牧野忠篤君 男爵南岩倉具威君 男爵紀俊秀君

千坂高雅君 古市公威君 鎌田勝太郎君

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ月曜日ニ本會ヲ開キマスガ、議事日程ハ決定次第、アトヨリ御通知ニ及ビマス、本日ハ是デ散會ヲ致シマス

午後零時八分散會